

汚れない市民の心を象徴する町

“牛歩の歩み、でも一步一步前進を”

こんなことを聞いたことがあります。「夏休みになったらどうするの?」「そうだなあ、すぐ田舎に帰ろうかな」「いいわね、帰るところがあつてー」都会で育った人と田舎で育った人の会話です。

田舎で育った人は「いいわねー」という言葉の意味が、はじめはわからなかったそうです。でも都会で生活し、たまに田舎に帰ることを繰り返すうちに、その意味がわかるようになったといいます。「都会に育った人は、その土地を故郷とは思わないんですよ。緑や光や土がないでしょう。考えてみるとあたり前のことだけど、自然がなければ故郷ではないんです。「帰るところがあつて」という言葉には、のうるおい、への渴望が痛いほどこめられているんですよ。」

現代は濁った世の中だといわれます。田並ひとつ見てもコンクリートで固められ、緑や光や土がない。

人間は自然の子です。自然が失われた時、人間は生きてゆけるでしょうか。自然破壊の速度がはやくなるにつれて人間性のそう失がやがましくいわれました。人間性の回復という声が高まるにつれて、自然を守ろうという声も大きくなっていきます。自然の豊かさは、心の豊かさのバロメーターです。自然は、私たちにうるおいを与え、活力を与えてくれる。

春のせせらぎ、夏の深緑、秋の紅葉、——美しい四季の移りかわり、南国市の豊かな自然は、私たちが誇りをもって後世に伝えることのできる遺産です。

人々は深い緑にかこまれて、花を友とし、鳥と遊び、せせらぎでは水しぶきが上がり、澄みきった水面には釣り糸がたれ、空はぬけるほど青い——。

そんな汚れない人々の心を象徴する街。夢ではありません。市民一人ひとりのちよつとした心がけと、理解があれば、長い年月がかかるでしょう。しかし、たとえそれが“牛歩の歩み、”であっても、一步一步、前進させなければならぬでしょう。

川は心よい音色をかなで、狐を描いてアヒルが流れる (宇田で)